

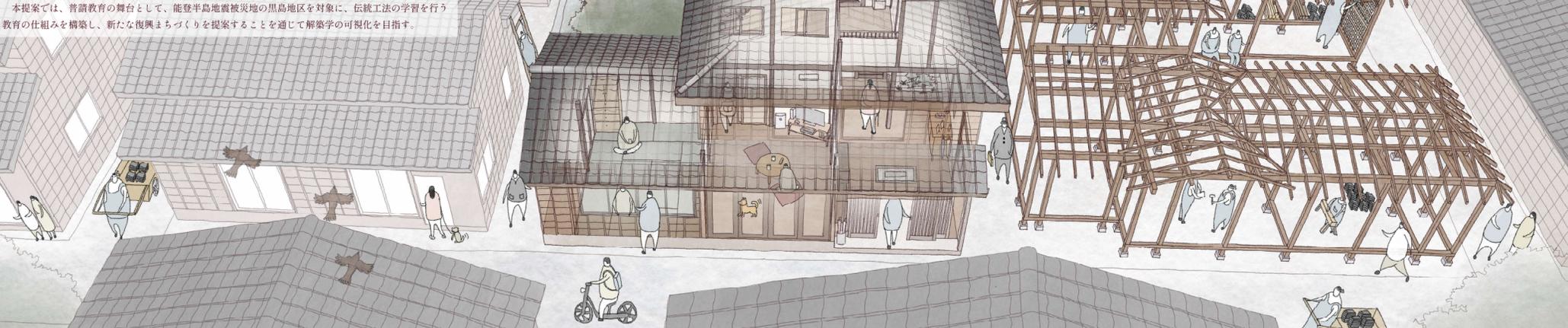
# 普請教育

～伝統技術の継承による新たな復興のまちづくり～

「普請」とは、自然と共に暮らし、地域住民が助け合いながら建築してきた伝統的な文化である。戦前は、住民同士の支え合いと職人による伝統工法の継承が地域の社会的共通資本を形成してきた。しかし、戦後、住宅の工業化によりプレハブ工法の住まいが増加し、自然と調和した景観は、均一化した建物の影響で失われた。その結果、現在の日本には、リノベーションや解築困難な建物が地域を埋め尽くし、建築教育の変化に伴い、伝統的な技術や地域のつながりも衰退してきた。

一方、翻って考えると、伝統工法の建物は再生・改修することができ、持続可能な社会づくりにおいて重要な役割を果たす。その技術を継承するためには、「普請」の精神を現代に再び根づかせることが不可欠である。

本提案では、普請教育の舞台として、能登半島地震被災地の黒島地区を対象に、伝統工法の学習を行う教育の仕組みを構築し、新たな復興まちづくりを提案することを通じて、建築教育の可視化を目指す。



## 01 背景：時代による歴史の歩み

年	戦前	戦中	戦後	高度経済成長	成熟社会
1936年 1937年	・日中戦争の勃発 本格的に戦争が始まる。	・終戦宣言	・建築基準法の公布	・第一次オイルショック 省エネや性能、耐久性への関心が高まる。	・職人育成の学校が開校し始める。
1945年	・国家総動員法の制定 国民・物資・労働力を全面的に統制可能にする。	・戦災復興の計画	・文化財保護法の施行 重要文化財建造物の保存修理が法的に制度化される。	・建築基準法改定 耐火・準耐火の規制強化	・建築基準法の改正 新耐震基準の導入 住宅性能表示制度が始まる。
1950年	・資材の軍需優先化 民間建築に制限がかけられる。	・朝鮮戦争の勃発 朝鮮特需による軍需景況が発生し、経済成長のきっかけとなる。	・空襲被害による住宅不足	・阪神・淡路大震災の発生 耐震基準の見直しが始まる。	・能登半島地震の発生
1955年	・戦後の人口爆発	・朝鮮戦争の勃発 朝鮮特需による軍需景況が発生し、経済成長のきっかけとなる。	・住宅不足の深刻化	・民間「ハウスメーカー」の登場	・能登半島地震の発生
1973年 1980年	・プレハブ工法の登場	・プレハブ建築協会の設立	・住宅の工業化	・木造軸組工法	・住宅の工業化
2000年 2007年	・東日本大震災の発生 非常時対応の設計が注目される。	・東日本大震災の発生 非常時対応の設計が注目される。	・東日本大震災の発生 非常時対応の設計が注目される。	・東日本大震災の発生 非常時対応の設計が注目される。	・東日本大震災の発生 非常時対応の設計が注目される。
2024年 2025年	・東日本大震災の発生 非常時対応の設計が注目される。	・東日本大震災の発生 非常時対応の設計が注目される。	・東日本大震災の発生 非常時対応の設計が注目される。	・東日本大震災の発生 非常時対応の設計が注目される。	・東日本大震災の発生 非常時対応の設計が注目される。

## 02 問題提起：教育の転換

知識偏重とした教育では、実践経験を通して学ぶことが前提となる伝統建築技術の習得が困難である。職人の技や感覚は、現場での体験によって身につく貴重な学びの機会であるため、現代の教育の枠組みだけでは、担い手の育成が追いついていないことが問題視されている。これにより、歴史的建造物の修繕・保存が滞り、地域文化や伝統の喪失が進む恐れがあるのではないだろうか。このような現状を解決するには、知識偏重の教育から、実践経験を重視し主体的に学習する教育への見直し求められる。

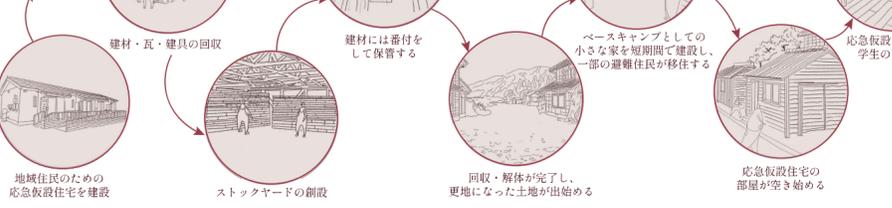
## 03 敷地：石川県輪島市黒島地区 - 歴史を伝承するまち

敷地は、石川県輪島市の西南部、海岸段丘上に細く形成された黒島地区に位置する。黒島地区は、かつて日本海航路による海運業の発展とともに栄え、北前船の船主および船員（船頭や水主）の居住地となった。特に江戸時代後期から明治時代中期にかけて最盛期を迎えた。今でも当時の町割りが残っており、2009年には国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。しかし、2024年の能登半島地震によって甚大な被害を受け、歴史的景観の多くが損なわれた。往時の面影を伝える町並みは、今まさに存続の危機に直面している。

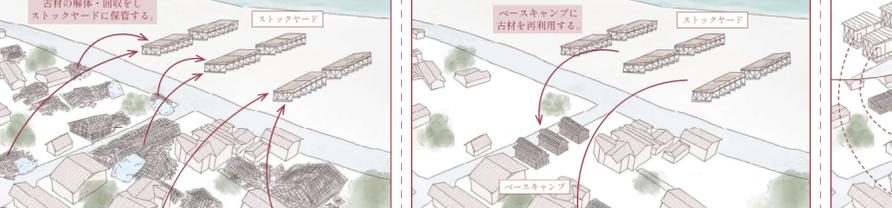
## 04 提案：教育 × 段階的復興

能登半島地震により被災した重伝建の黒島地区を対象とし、段階的に復興を進めながら、現代の学生がプロジェクトベースで伝統建築技術と地域文化を実践的に学ぶ仕組みを構築する。提案では、伝統建築技術を有する職人と連携し、学生が主体的に技術を学ぶことにより、伝統建築技術を継承する職人の育成を行う。これを通じて、住宅再建を推進し、黒島地区の着実な復興を図るとともに、教育と復興の相乗効果を生み出すことを目指す。

### ■職人の育成方法

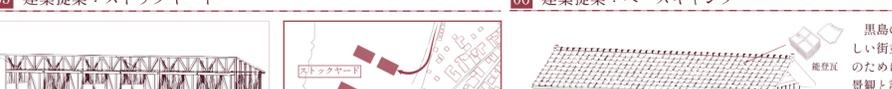


### ■古材の利用



## 05 建築提案：ストックヤード

回収した建材・瓦・建具をストックヤードに保管する。ストックヤードは地震によって陥没してしまった海岸に配置する。これにより、住宅の古材を集約できる広いストックヤードを創設することができ、また道路に面していることもあり運搬が容易である。



## 06 建築提案：ベースキャンブ

黒島の文化を尊重し、黒島らしい街並みや風景をつくる。そのためには、周囲のまち並みや景観と調和するよう、木造軸組構法を採用する。また、屋根は回収した能登瓦を使用し、下見板張りや木製面格子を意匠として取り入れる。これにより、黒島ならではの魅力を継承しながら、持続可能な景観形成を守り続ける。



## 07 敷地計画：復興と教育の連携



定住者がゲストハウスを開き、一部で地域住民や観光客が利用できるカフェを運営する。 応急仮設住宅から移り住んだ職人が、住宅の再建が完了するまで生活する。 住宅の再建が完了し住民が被災前の生活を始める。 職人と学生が連携して住宅の再建を行う。